



# せいかつ

子ども

シニア

支え合う

少子高齢化などを背景に、お墓を撤去する「お墓じまい」や、お寺と檀家の縁を切る「離檀」などで、遺骨を合同墓など別のお墓に移す例が目立ってきた。22日の「遺骨の自宅保管」の問題に続き北海道中央霊園(三笠市)の利用者の例を中心に、最新事情を紹介する。

(編集委員 福田淳一)

同霊園では、多数の人の遺骨と一緒に埋葬する永代供養付きの合祀墓「結の苑」のほか、昨年は2平方メートルのコンパクトなお墓を集めた「テラス墓地」72基分を造成した。土地使用と墓石のセットで永代使用なら48万〜68万円という値段設定。ほぼ完売する人気ぶりだ、新規区浜市出身で一人っ子。両親と父

## 遺骨の行方

①

# お墓じまい、離檀で別の場へ

画を造成中だ。

小樽市の男性(69)は、このテラス墓地を求めて自分と妻の両家の両家の名前を墓石に刻み両家のお墓にしている。男性は一人っ子。自分の両親、父方の祖母が眠る空知地方でお墓じま

方の祖母が眠る同市内のお寺で昨年お墓じまいをして、テラス墓地を求めた。「父の五十回忌、母の十三回忌を終えたのが一つのきっかけ。横浜まではなかなかお参りにも行けませんし、お寺には毎年、管理料もお支払い

していました」と語る。管理料を考えると、テラス墓地が価格的に手ごろだったといい、車で30分ほどでお参りに行くことに安心した表情だ。

一方、道央に住む女性(85)は2年前に夫と夫の両親の遺骨を北海道中央霊園の合祀墓「結の苑」に埋葬した。永代供養付きで費用は遺骨1体で3万9千円。夫は20年前に死去し、遺骨はいったん夫の両親の遺骨を預けているお寺の納骨堂へ。夫の死去で年金も減り生活費を切り

## 超高齢社会の絆

詰めながら、お寺にお布施や管理料を支払っていた。

その後、お寺側から本堂の改修工事に伴う200万円以上の寄付金の要請が舞い込んだが、とても支払えない。このため、自分が支払える額の寄付をして



北海道中央霊園で人気のテラス墓地。お墓じまいに伴う利用もある。左は理事長の武田さん(写真は一部加工しています)

「離檀」を決意。遺骨3体を自宅に引き取って困っていたが、北海道中央霊園の合祀墓を知って納骨を決めた。

関東地方の男性(76)は、ある日突然、父方の祖父の遺骨が納骨堂にあるお寺から過去30年分の管理料、命日・お盆の読経代60万円の請求を受けた。父親が死去しているため経緯ははっきりしないが、今後永代供養を頼めば150万円と言われた。請求と合わせて200万円を超えてしまう。

支払いができません遺骨を自宅に引き取り、祖父母が北海道生まれだったため、北海道中央霊園の合祀墓に今年4月に納骨し

た。

同霊園は、園内のお墓は将来お墓じまいができるよう「期限付き利用」が選べるほか、改葬(お墓の引越)手続きの無料代行、ゆうパックで遺骨を霊園に届けるための全国無料送骨サービスも取り入れている。

理事長の武田寛さん(55)は、お墓じまいやお寺からの離檀などに関して「信仰心が薄くなった、遺骨や故人のことをないがしろにしているといった世間で言われることとはまったく違う問題。少子高齢化という社会の環境変化や高齢者との経済格差が埋葬にまで影響しているのだと思います」と話している。

支払いができません遺骨を自宅に引き取り、祖父母が北海道生まれだったため、北海道中央霊園の合祀墓に今年4月に納骨し